

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1290500014
法人名	株式会社 マウントバード
事業所名	グループホーム みどりの家
所在地	千葉県緑区誉田町2-11-105 (電話) 043-292-4907

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年7月25日	評価確定日	9月28日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	10 人	常勤(専任3 兼任1)人, 非常勤6人, 常勤換算4.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造洋瓦葺
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,500円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 83 歳	最低	65 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉南病院、武村内科医院、都賀デンタルクリニック
---------	--------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR外房線誉田駅から徒歩8分、周囲は緑溢れる環境である。ホームの600坪の庭は広々としており、同法人他ホームとの交流等、様々に活用されている。周辺住民は古くから土地に住んでいる人ばかりで、ゆったりと落ち着いた土地柄と言える。平成18年8月に開設した2階建て2ユニットのホームは、木目を生かした明るい内装で、入居者は和気藹々と生活をしている。1階浴室はリフト完備。脱衣場から洗い場、風呂桶まで座ったままで移動できる。夜になると天の川が見えるというホームは、少しずつ地域に馴染み始めており、入居者の終の棲家としてより一層の充実を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は今回が初めてである。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 毎朝のミーティングで、10項目ずつ職員が話し合いを行った。管理者がとりまとめをした後、更に職員全員で自己評価票を回覧して意見を出し合い、最終版を作成した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 平成19年9月に第1回開催を目安に準備を進めている。現在、民生委員、老人クラブ、千葉市いきいきプラザなどに顔つなぎし、参加を呼びかけているところである。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 面会時やケアプラン作成時などに、職員が家族に意見聴取している。ハガキ、電話等でも定期的に連絡をしている。8月11日にはホーム主催の夏祭りを計画しており、家族にも参加を呼びかけている。そこで顔なじみの関係を作り、9月開催予定の運営推進会議にも参加してもらいたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム周辺の農家、商店街などで、馴染みの関係を作りつつあるところである。警察や消防、誉田駅とも連携を保っている。ホーム開設1年が経過したら、地域の自治会にも参加したいと考えている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔、真心、信頼のある介護」というホーム理念は、職員全員で話し合い、作り上げたものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の言葉を、月1回のフロア会議で話し合っている。また毎日の朝礼で唱和している。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会行事などに参加している。近くの商店街や公園等に出かけ、地域交流の一環としている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で話し合って作成した。外部評価の結果は、真摯に受け止めるとしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催していない。平成19年9月に第1回目を開くため、地域の人たちに顔つなぎをしているところである。		予定通りの開催が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	医療連携体制加算を受けるため、千葉市役所高齢施設課にはしばしば相談に行っている。花見川区役所、緑区役所の高齢施設課や生活保護課とも連携を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、手紙とハガキを送付し、日々の暮らしぶりを伝えている。健康状態に変化があったときはすぐに電話で家族に連絡する。金銭出納帳は主に面会時に確認してもらっている。なかなか面会に来られない家族の家へホーム職員が写真等を持って訪問することもある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	説明文書に相談窓口を明記し、意見・苦情等が出た場合は、苦情対応フローに沿って対応し、解決に向けて話し合いをしている。家族全体会議の開催も検討している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの1階ユニットと2階ユニット間で職員の異動はあるが、ユニット同士で交流をしているので、特に混乱は起きていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は積極的に外部研修へ参加している。法人総務部長が医薬品情報に詳しいため、ホーム内部で医療面の勉強会を行っている。また、長谷川式簡易知能スケールやBarthel Index (BI, 基本的日常生活活動度) をアセスメントに取り入れているため、これらの勉強会も開いている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症の人を支援する専門職千葉連絡会の研修に参加して同業者と交流を行った。同法人の運営するちぐさの家、わかばの家とも横のつながりを持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は混乱し、帰りたがる場合が多いが、職員が根気よく声かけし続けると、概ね2週間ほどで落ち着いてくるとのことである。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が声かけし、家事などを一緒に行うようになっている。職員が庭の草むしりをしていると、入居者が自主的にお茶を入れてくれることもある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ごとに担当者を決め、長谷川式簡易知能スケールやBarthel Index (BI, 基本的日常生活活動度) を取り入れたアセスメントを行っている。また日常生活から発見した入居者のニーズは、職員全員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人の意向、家族の希望、職員の気付きなどは毎朝の朝礼で共有し、ケアプランに盛り込めるよう記録している。医師との連携も密で指導助言をいただいている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態がよく変わるため、随時話し合いを行い、ケアの見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームでできるサービス内容を民生委員に伝えたり、家族からの相談に応じている。入居者と家族には、ホームでできること、家族にお願いしたいことなどを十分説明し、理解を得ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前から特定疾患などでかかりつけ医が決まっている場合は、継続している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでターミナルケアを行っている。終末期には入居者の好きなように過ごしてもらい、酸素濃度が一定数を割るようになったら、病院へお連れする。提携の千葉南病院が5分のところにあり、24時間連絡できる。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員とは入社時誓約書で、家族とは個人情報同意書で徹底し、日ごろ言葉かけや対応で十分配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急遽の入院や退院時等、職員の人手が足りないときには、入居者の要望にすぐに沿えないこともある。		入居者が個々にその人らしい暮らしを実現できるよう、今後が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	刺身が食べたい等の要望が出た時は、業者に連絡してメニュー変更してもらう。マクドナルド、ケンタッキーなども人気で、職員と共に数人で食べに行く入居者もいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階浴室はリフト完備。家庭用の風呂に取付けられたコンパクトなリフトが脱衣場から洗い場、浴槽まで移動するので、便利な作りとなっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	開設以来日にちも浅く、入居者一人ひとりの好みや力量が十分把握しきれていないと言いがたい。		長谷川式簡易知能スケール、Barthel Index (BI, 基本的日常生活活動度)、職員の気付きなど、様々な手法を用いて、入居者一人ひとりの見極めを続けている。張り合いや喜びのある日々が暮らせるよう、今後に期待したい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者全員が一度に外出できる車の台数があるので、千葉ポートタワー、サンライズ九十九里、イチゴ狩り、外食等、さまざまなところに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	消防署の指導では開けておかなければならない非常口のドアを、危険防止のため施錠している。		入居者が2階非常口のドアから出てしまい、非常階段から転落することを防止することももちろん大切だが、防災面での配慮も工夫が求められる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網が整備され、近くに住む職員は夜中でも駆けつける体制にある。消防署からは年2回の訓練や指導を受けており、避難場所の確保もできている。地域との連携はこれからである。		消防団等、地域住民による自主防災組織に加入するなど、地域との協力体制作りも必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、おかゆ・つぶし・刻みにするなど、形状や量、味付けなどを工夫し、水分量もチェックして、栄養確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は木の香りとぬくもりがいっぱい。居室入り口に掛けられた色とりどりの暖簾が個別の目印になっている。トイレの壁面には光触媒の消臭パネルが取り付けられていた。共用空間には心地よい音楽が流れ、窓からは、緑豊かな林の風が爽やかに吹き込んでくる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やぬいぐるみ、思い出の装飾品、写真などが置かれている。ベッドか畳かを希望に合わせて選択できる。カーテンも好みのものを選び、安心して居心地よく過ごせるよう工夫されている。		